

2019年11月3日(日) -横利根川-

我がいわき支部は2年連続で福島地区予選を勝ち抜いての参加だ。昨年から中央の支部と地方の支部が同じ土俵で戦う形となり、まさに日研の日本一を競う大会となった。さらに、この大会は環境大臣杯ということで、今年優勝すれば小泉大臣の名前が入った賞状が貰えることになる。いわき支部は、地方部が分かれていた時代には何度も優勝しており、私も金メダルと銅メダルを持っている。あとは銀メダルがほしいところ？(笑)

試釣編

前日の土曜日、朝三時半にいわき市を出発。現地に到着すると既に試釣組と思われる面々がポイントに向かっている。我々も各船宿に分かれて試釣開始。今回のトーナメント選手は、藤田会長をキャプテンに、今年、年間優勝を決めている小野君、そして、団体戦のレギュラーメンバーの永山さんと松ちゃん。そして、代打の切り札?でも横利根は大の苦手としている私の5名である。

団体トーナメントは、5つの船宿から1名ずつエントリー。それぞれの船宿の1位を100点として、その釣果に対する各選手の釣果の割合をポイントとするルール。例えば、1位が10kgだとして、5kgであれば50点となる。昨年までは、総釣果で競われていたので、釣れない船宿は大して重要ではなかったのだが、ポイント制になれば、釣れない船宿ほど重要(怖い?)となる。

さて、私は、期待されていない?ので、最も釣れないと思われる「小松屋」出船である。とりあえず、「あづま」方面に向かうと、松ちゃんから電話が入り、あづまとの境界付近で釣れているとのこと、行ってみると、棚2本位で入れパク状態。釣れているのは手のひらサイズの放流ベラ。さっそく隣に並んで1本の宙で餌打ちするが一向に反応がない。その内、入れパクの人も静かになってしまった。会話を聞いていると、棚2本で底とのこと。「うそっ?!」と思って棚を測ると確かに2本。ということは入れパクは底だったようだ。

ここで、移動して小松屋前に戻ると、ここは11尺でいっぱいくらいの棚である。しばし宙で両ダンゴをやってみたら、ブルーギルのオンパレード。底も得体の知れない大物がヒットしたのみ。でも、周囲では、地ベラが2、3枚は出ているようだ。いずれにしても釣れないのは明白。あとは、朝一の冒険で浅場に入るか、じっと我慢の釣りで地ベラを拾うかだ。試釣が終わり集合すると、やはり釣れているのは船宿「堀井」から行く仕切り網、もちろんポイントGetterの小野君は女子感触の様子。そして「平野」の藤田キャプテンも囂やかな試釣。「あづま」の松ちゃんも良い感じ。厳しいのは「中島屋」の永山さんと私。私はオデコで全く良いところなし。まあ、方向は2分の1なので、後は釣り方次第。

前夜祭も早々に、何時もの潮来ステーションホテルに入り、何時もの某有名プロアングラーの釣具屋に向かい、会長御推薦の妻巻を購入、グルテン系も必要なので、芋グルもゲット。さらに両ダンゴの針を購入。いつものように駅前のトンカツ屋でゲン担ぎ?のトンカツで満腹。本当なら、ビールで前祝といきたいところだが、ホテルに帰って針を結びながら就寝・・・



今回のトーナメント選手(福島地区予選時)



大会とは全く関係ありませんが、前日の宿泊は潮来の駅前。ここには某有名プロアングラーのMさんの釣具店があります。本番のエサを調達。

本番

暗い中チェックアウトし、本部となる中島屋に集合。入釣は、各船宿でくじ引きとなる。くじ運の悪い私だが、22人中11番。上出来の順番である。この時点では、まだ、「あづま」方面の浅場に入るか、「中島屋」との境界に入るか決めていない。前の人たちの出船方向で決めることに。すると、7割の人があづま方面、ということで、中島屋方面に向かうことにする。境界の手前には1艇が入っているの、その隣の2番目に入ることに。13尺の棚2本、両ダンゴの決め打ちである。会長の指示どおり凄まじくマッハ2：2に水1で始める。両隣は15尺ほどの底とバラケにグルテンのセットのようだ。そして、釣れ始めたのは両隣。1、2枚と選考されて、さすがにヤバイと思いはじめたころ、浮子の隣でモジリ。なんで釣れないの?と思ったのも束の間、すぐに当たりがあり、待望の一枚目。釣れてきたのは放流ベラの小ベラだが、オデコと1枚は天と地の差。早速、ラインで皆さんにお知らせ!



当日朝、全国から集まった面々で熱気に包まれています。

ところが、ここからが試練の時間帯となる。特に右隣の15尺のバラケにグルテンのセットは、連ちゃんこそないものの、ポツリポツリ拾っていく。時折地ベラも混じっている感じ。少なくとも見渡す範囲では一番釣れているので、食いついていかないといけない。タナを変え、底もやってみるが一向に釣れないので、後悔しないように15尺を出すことにする。すると、長くしたのが良かったのか? たまたまなのか? 新べらが回ってきたらしく、浮子の動きが変わり、ポツリポツリと3枚を拾うことができた。しかし、浮子の動きからすれば、もっと釣れてもよいのだが・・・結局、この地合いも何時しか終わってしまった。唯一のチャンスは最後の数分、引きからすれば地ベラ?と思われるスレ。これをバラして終了となった。結果、4枚の放流ベラで800g。小松屋では一位が3.1kgなので、約26ポイントである。いわきへら研は、堀井の〇野君と平野の会長は予定通り好釣果だったものの、残り3人が苦戦。昨年より一つ順位を落として6位となった。優勝は、各船宿で1位を2つゲットした蕨支部。1位から4位までは中央の支部が独占。地元の強さを発揮した大会となった。久しぶりの横利根川で、釣れない小松屋出船だったが、何となく釣りの方向性は分かったので、来年はぜひリベンジしたい。

順位	支部名	合計点数	個人点数
優勝	蕨	312.66	100.00、100.00、60.82、42.94、8.90
2位	巽	274.92	100.00、100.00、52.56、12.40、9.96
3位	佐原	267.63	100.00、59.62、44.74、38.64、24.63
4位	取手	267.29	71.89、70.51、65.23、33.73、25.93
5位	静岡静水会	245.79	86.38、52.56、45.28、43.42、18.15
6位	いわき	204.27	75.12、62.50、25.64、23.49、

各船宿の最高釣果

船宿	堀井	あづま	小松屋	中島屋	平野
最高釣果(kg)	16.7	5.6	3.1	7.4	10.7

[いわきへら研のサイト](#)